



水源池の歴史

西岡水源池は、月寒の歩兵第二十五連隊の軍施設に給水する市内最初の上水道「月寒水道」の貯水池として使われていました。この水源池から月寒川に流れ込むところには、堤防を守るために不動明王の祠が作られ、戦前は祭事が行われていました。戦後の昭和二十四（一九四九）年からは豊平町上水道として、さらに昭和三十六（一九六一）年からは札幌市上水道として、昭和四十六（一九七二）年に白川浄水場が完成するまで、長く市民のために役立ってきました。貴重な水源としての使命を終え、今では取水塔だけがその名残をとどめています。取水塔は、平成十三（二〇〇一）年、文化財保護法による歴史資料として認められ、国の登録有形文化財として登録されました。



森の中にひっそり不動明王の祠がたたずむ

「西岡レクの森」自然歩道。トドマツやシラカバなどが生い茂ります。



自然散策

小さな子ども連れには、一周が一・三キロメートルほどの水源池を取り囲む森の散策がおすすめです。芝生広場や木道があり、親子一緒に楽しめます。木道からは、「西岡レクの森」自然歩道などへも行くことができます。

自然歩道は、国有林内のまだらかな起伏を利用したもので、樹齢三十年を越える針葉樹が茂っています。一周は四・五キロメートルで、七十分ほど。木漏れ日を浴びながら自然と触れ合えるコースとして親しまれています。

自然の宝庫！

西岡公園

へ行こう!!

水源池を中心として、豊かな自然が広がる西岡公園。野鳥やホタルなど、さまざまな動植物が四季を通じて散策に訪れる人の目を楽しませてくれます。

夏を迎えるこの季節、涼を求めて、また自然との触れ合いを求めて、西岡公園に足を運びませんか。

生き物たち

春の訪れを告げるミズバショウの開花に始まり、四季折々の草花が、そして秋には鮮やかに色づいた木々の紅葉が、公園を訪れる人の目を楽しませてくれます。今の季節はちょうど水源池の周りを中心に、オオウバユリを見ることが出来ます。また、公園内ではマガモ・カワセミ・クマガラなど、約百四十種の野鳥が観察されています。そして、初夏にエゾハルゼミが鳴き始めるのをかわきりに、さまざまな虫の声を聞くことができます。夏から秋にかけては、オニヤンマをはじめ、生息種が道内一といわれる四十種以上が観察されています。

美しく開花したミズバショウ



上のトンボが飛び交うほか、七月上旬〜八月上旬には、エゾヘイケボタルを川面で見ることが出来ます。

冬には、雪に覆われた木立の中で、エゾリスの姿を見かけることもあります。そのほか水源池には、コイ・ウカサギなど、十数種の魚類が生息しています。このように西岡公園には、多くの生き物たちを育む豊かな自然が残されています。

キャンプ場

公園内の一角には、西岡青少年キャンプ場があります。キャンプ場は、野外活動を通じ、四季折々の自然と触れ合うことができるよう、年間を通してご利用いただけます。

キャンプ場の利用については、札子連豊平区事務局（☎812-7183）までお問い合わせください。



札子連夏のキャンプ

7月22日(土)・29日(土)に「親子ナイトウオーキング～ホタル発見隊 in 西岡公園」を開催します！詳しくは、本誌区版8ページ「豊平区体育館だより」をご覧ください。